

《梵蔵たかちゃん(高田 俊一)の空想仏教史「仏教史の概略(目次)」》

※仏教とは：成仏する為の教えと方法と力。

＝あらゆる束縛から解き放つ教法。

＝当時は、ギリシャ系アーリア人の造った、カースト制度(永遠の輪廻)からの脱却。

＝“生・老・病・死”の苦悩を含め、煩悩を解き脱出する教法。

極端な苦行は不要⇒中道。

＝現象世界を含め、宇宙から人間に至る本質を知ること。

＝総ては、縁に因って“離合集散”していく。実在と言う“永久不変”のものは無い。

＝「諸行無常・諸法無我」「一切皆苦」「涅槃寂靜」

⇒“我(アートマン)”と言う、永久不変のものは無い。

※対機説法であり、言葉での説法であった。(根本仏教)

※十大弟子は、勿論、他の多くの人々が“悟りを開いた”…“頓悟”⇒五百羅漢。

※大宇宙を我々人間の浅はかな能力で解こうとする事自体、困難で、ある一面のみ。

＝唯物論や認識論、観念論…時代や民族によっても異なる。

《原初經典『アーガマ』…第一結集》

※仏滅後：大迦葉わかれを中心に、阿南に口述させ、五百人の比丘に確認し、筆記⇒文書化。

「如是我聞」我(阿南)は、是くの如く(釈尊から直接に)聞きました。という意味。

この初めての仏教經典が“伝承”という意味の『アーガマ(阿含經)』なのです。

◇釈尊時代のマガダ語での本当の原本は現存していない。パーリ語やサンスクリット語や、その後のチベット語、漢訳經典の『アーガマ(阿含經)』は現存し、最も釈尊の直説の教えに近い經典として、非常に重要な史料となっています。

《部派仏教…煩瑣はんさ哲学。深層心理。》

※戒律重視…スリランカへ伝播(南伝仏教)⇒東南アジアの各国へ(現在も継続)

※現象世界の分析。“瞬間「有」の連続が一切”。“絶対「無」…錯覚”。

※釈尊は偉大⇒前々…世からの修行の賜物⇒前生譚の創作…“漸悟”

※文化・経済の無視…改革派との対立。根本分裂。上座部 vs 大衆部。

※上座部は、阿含經を秘匿。僧院の奥で瞑想思索に耽溺。(小乗と蔑称された)

◇アビダルマ仏教と言う煩瑣哲学の迷路へ。現在でも仏教理論を追求すると迷路へ。

◇“唯物論”や“認識論”。“深層心理”。“十二因縁⇒輪廻転生からの解脱”

◇七科三十七道品…瞑想(呼吸法・ヨーガを含む)に拠る成仏の教法。

【認識論…(1)】

- 《仏教の心理分析》識を認める論。唯識。^{ゆいしき}
- ※前五識(眼・耳・鼻・舌・身)^{げん に び せつ しん} + 第六意識^い + 第七末那識^{まな} + 第八阿頼耶識^{あらいや}。
- ※《如来蔵・仏性・本覚・本門》^{にょらいぞう ぶつしょう ほんがく ほんもん}
- ※「頓悟説」と「漸悟説」^{とんご ぜんご}

《大乘仏教》

《初期大乘仏教》^{だいいしゆ}

- ※追放された大衆部は、遺骨奉持の集団と協力。新たな經典の創作⇒大乘仏教。
- 「新たな經典の書き出しに、“如是我聞”という言葉を付けた」⇒後の大混乱の本。
- ◇“有”でもない“無”でもない。“空”という考え方…釈尊の根本定義の言い替え。
- ◇新たに、“布施”“慈悲”という考え方の発生。(出家しなくても成仏可能)。

《中期大乘仏教》

- ※多くの仏達の創出。
- ※三宝=仏・法・僧。眞の仏?(仏舎利、仏像) 眞の法?() 眞の僧?()
- ※三密(仏の身・口・意)…宇宙の眞理を表す。
- 三業(凡夫の身・口・意)…煩惱を創り出してしまふ。

《後期大乘仏教》

《密教と顕教》

- ※顕教は、経典や論に書かれた、つまり、表面に顕れた教えを実践したり研究する。
- ※密教は、文字や文に顕していない教えや方法。呪術。瞑想。禅。不立文字。口伝。など。
 - ◇師が、一子相伝として、中々教えない、秘密という意味。
 - ◇自ら、悟らなければ判らないという、奥深い真理という意味。

《仏像・仏画の発生。》

- ※“像”とは、映像・虚像のように、実在しない「像の姿」^{かり}
- ※マトーラ仏(釈尊追慕の念の深まり…紀元1世紀半ば)
- ※ガンダーラ仏(ギリシャ文明の系統を引く、ヘレニズム・ローマの影響…略同時代)

《チベットへの伝播…ラマ教(チベット密教)》

- ※第三期密教は、インドからチベットへ…モンゴルへ伝播。
 - 霊的な要素が強い。
 - チベット密教は、中国によって壊滅状態。避難先のグライ・ラマから日本へ伝播。
- ※第四期密教は、インドからブータンへ伝播(現在も継続)
 - ブータン⇒日本へも伝播。(東伝仏教)

《中国の歴史概観》

- ※古代文明⇒神話・伝説時代⇒夏・殷・周・商…春秋戦国・秦⇒前漢・後漢…五胡 16 国。

⇒魏・晋・南北朝⇒隋・唐・五代…宋・元・明・清⇒中華人民共和国。

《中国への伝播…漢訳經典群》

※北伝仏教(大乘仏教經典群、根本仏教、アビダルマ仏教、インド密教)一緒に流入。

※中国の偉大なる文化である、儒教文化と道教文化との軋轢と相互変質。

※漢訳仏教は、大乘仏教の變化形であるが、大きく異なった仏教となった。

「偽経」とも言われる、漢訳・漢作仏教の大躍進。

《大いなる間違い。五時教判。その巨大影響》

※天台大師^{ちぎ}智顛による法華經至上主義⇒

第一時^{けごん}華嚴時。第二時^{あごん}阿含時。第三時^{ほうどう}方等時。第四時^{はんにや}般若時。第五時^{ほつけねはん}法華涅槃時。

華嚴は高尚過ぎ。阿含は最も程度が低い。法華が最高⇒阿含經を無視する傾向。

※法蔵による華嚴經中心の五教十宗。

阿含經の無視は継続。華嚴經が最高の教え。

《中国での、禪思想》

《中国での、浄土思想》

《中国での、密教思想》

《朝鮮への仏教伝来》

《日本への仏教伝来》(北伝仏教)(大きく変遷した漢訳仏教の伝来)

《飛鳥仏教》(592～710の118年間)

※蘇我馬子が崇峻天皇を殺害⇒推古天皇(592～628)即位。

※聖徳太子(厩戸皇子)摂政に。⇒大化の改新。

仏法興隆の詔 発令(594)。冠位十二階制定(603)。憲法十七条制定(604)。

※遣隋使派遣(小野妹子)(607)。遣唐使派遣(630)。

※乙巳の変(中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我入鹿を討つ)(645)。

※白村江の戦い(唐・新羅に日本が敗北)(663)。

※近江大津京に遷都(667)

※中臣鎌足 山階寺(興福寺)創建(669)

※壬申の乱(大海人皇子が、大友皇子に勝利)(672)。

(大海人皇子…飛鳥浄御原遷都)(672)…天武天皇即位(673)

※持統天皇が藤原京へ遷都(694)。

※武蔵国秩父郡より銅を献上⇒和同開珎を鑄造・使用。

《奈良仏教》(710～794の84年間)

- ※南都六宗：「法相宗、俱舎宗、成実宗、三論宗、華嚴宗、律宗」
- ※ 43 元明天皇 平城京に遷都(710)
- ※ 『古事記』が出来る(712)
- ※ 44 元正天皇(715～724)
- ※藤原不比等ら、『養老律令』を成立(718)
- ※ 『日本書紀』が出来る(720)
- ※ 『三世一身の法』施行(開墾地は三世代に亘り所有可)(723)
- ※ 45 聖武天皇(724～749)
- ※聖武天皇 全国に国分寺・国分尼寺を建立(741)
- ※聖武天皇 『墾田永遠私財法』施行(開墾地は永遠に所有可)(743)
- ※聖武天皇 大仏建立の詔を発布(743)
- ※ 46 孝謙天皇(749～758) 東大寺大仏が完成(752)
- ※唐僧 鑑真 来日 律宗伝授(754)。奈良に唐招提寺を建立(759)
- ※「正倉院」完成(756)
- ※ 47 桓武天皇即位(781)。長岡京に遷都(784)。平安京に遷都(794)。

《平安仏教》

※末法思想：『日本靈異記』（仏滅後、正法千年(五百年説も)・像法千年・末法一万年説)

永承七年 末法到来。

※弘法大師空海の真言宗・真言密教。

※伝教大師最澄の天台宗・天台密教。

《鎌倉仏教》

※法然から浄土系各宗(浄土宗・浄土真宗・時宗・日蓮宗)

※『往生要集』と「地獄と極楽浄土」「厭離穢土」

《室町仏教》

※一向宗

《安土・桃山仏教》

※一向一揆、法華一揆の弾圧

※信長のキリスト教保護。

※秀吉の伴天連追放令。

※世俗権力による、不受不施派弾圧。

《江戸仏教》

- ※仏教界の対権力の弱体化⇒諸宗・寺院法度の制定。
- ※切支丹弾圧⇒島原の乱。
- ※本末制度。寺檀制度⇒寺請制度⇒宗旨人別帳⇒民衆支配(葬式・法要の普遍化)。
- ※儒者による、仏教批判(仏教者の墮落)。神道家による排仏論⇒廢仏毀釈。
- ※加上説による、大乘非仏説論の萌芽。
- ※(葬式仏教)

《明治仏教》

- ※国家神道重視…神仏分離令⇒廢仏毀釈。
- ※ヨーロッパでの文献学からパーリ語の根本經典群の解読。⇒西伝仏教。

《大正・昭和の仏教》

- ※新仏教

《昭和戦後～平成・令和の仏教》

※